おおつちNEWS

OTSUCHI NEWS

6月17日

五輪の聖火、大槌を駆ける

東京 2020 オリンピック聖火リレーは６月 17 日（木）、大槌町を含む沿岸８市町村で開催されました。当町出身の佐々木慎也（ささきしんや）さん（紹介記事は裏表紙）、歌手で三陸おおつち PR 大使を務めるアンダーパス！の MIKA（みか）さん（写真）ら15名のランナーが、ひょうたん島を望む赤浜地区から、大槌駅まで聖火を届けました。沿道には多くの町民が集まり、熱い声援を送っていました。

6月13日

吉里吉里フィッシャリーナでサーモン祭り

６月 13 日（日）、第１回大槌サーモン祭りが開催されました。会場となった吉里吉里フィッシャリーナは、鮭の一本釣りや鮭バーベキューなどのイベントが行われていた場所で、東日本大震災後は初めてのイベント開催となりました。会場ではトラウトサーモンの寿司やお吸い物の振る舞い、サーモンのつかみ取りなどが行われ、会場には 3,000 人以上が訪れ大いに盛り上がりました。

5･6月

町内各校で運動会　勝利への思い熱く

５月中旬から６月にかけ、大槌学園、吉里吉里学園では運動会、体育祭が行われました。新型コロナウイルス感染拡大対策に伴い、時間を短縮したプログラムとなりましたが、生徒、児童たちは競技や応援に全力で取組、見に来てくれた家族や地域住民の前で白熱した戦いを繰り広げました。

News Taiwan

2021 東京オリンピック 台湾選手 INTRODUCE part4

馬術　陳少曼（チェン シャオマン）　不屈の精神でオリンピック出場の夢を実現

陳少曼（32）選手

北京、ロンドン、リオと３度のオリンピックを逃した陳少曼選手ですが、東京オリンピックで念願のオリンピックへの切符を手にしました。台湾馬術選手のオリンピック出場は史上２人目の快挙です。

2019 年８月彼女はオランダのファルケンスワールトで開催された馬術団体の東京オリンピック予選に出場しますが、結果は残念ながら４位に終わり、団体としてはオリンピック出場を逃しました。しかし、彼女は諦めずに 12 月に開催された東南アジア・オセアニアの個人予選に出場し、見事３位に輝き、東京オリンピックの切符を獲得しました。

８歳より乗馬を始めた陳少曼選手は、18 歳でオリンピック出場を目指しますが、３度のオリンピック出場を逃しました。しかし、彼女は諦めず、東京オリンピックを目指し、年間 50 試合以上出場し、時にはプレッシャーやストレスで眠れなくなる日もありましたが、努力を重ね、悲願の東京オリンピック出場を決めました。

馬術　汪亦岫（ワン イーシュウ）　台湾馬術の第一人者　馬術に人生を捧げる

汪亦岫（32）選手

台湾史上初の馬術選手としてオリンピックに出場を果たした汪亦岫選手は、多くのスポーツが男性中心の中で、障害馬術は非常にユニークなスポーツであると語っています。障害馬術において、年齢、性別、馬の体格は関係なく、同じ目標に向かう騎手と馬との阿吽の呼吸によって結果が決まると話しました。

彼女はこれまでの選手人生で何度も落馬を経験し、一度は大きな試合でも落馬したことがあります。その時には、頸椎や脊椎、骨盤を痛める身体的な怪我を負っただけではなく、精神的にも自信を喪失してしまいました。しかし、再び乗馬すると、馬との一体感を感じ、不安が払拭され、立ち上がることができました。

彼女は乗馬を始めて 20 年の月日が経ちます。よく自問することがあります。「自分は何を成し遂げたいのか？」「目標は何か？」毎日、苦しいことも多く、プライベートの時間を削り、自分を犠牲にしていると感じることがあります。しかし、オリンピックへの出場がそのマイナスの思いをすべて吹き飛ばしてくれます。

「乗馬することが本当に楽しい。この楽しさがある限り、永遠に私は挑戦し続ける。」

アーチェリー　譚雅婷（タン ヤーティン）　ベテラン選手最後の挑戦　金メダルを狙い撃ち

アーチェリー選手　譚雅婷（28）

アーチェリーの台湾オリンピック代表譚雅婷選手は、現在、オリンピックへの準備を着実に進めており、再びオリンピック代表ユニフォームを纏い、東京オリンピックに参加することを楽しみにしています。

２度のオリンピック経験を持つ譚選手は現在、世界ランク２位であり、さらに進化できるよう練習に励んでいます。彼女は最大の敵は自分自身だということを自覚しています。進化するためには、自信のなさを克服し、精神面や技術面をより安定したものにしていく必要があると考えています。

昨年は、企業リーグで８連敗を喫し、引退も考えたほど、選手人生の中では最低の状態でした。彼女は今までの選手としての経験を振り返り、競技をスタートした頃の楽しさを思い出し、自分の中での仕切り直しを行いました。また、先輩にもアドバイスを求めることで、徐々に低調状態から抜け出すことができました。

2021 年の東京オリンピックは、彼女にとって３度目のオリンピックであり、恐らく最後のオリンピックとなるでしょう。彼女は団体で最大のライバルである韓国に勝利することにくわえて、個人戦でも金メダルを獲得し、自身の選手人生を最高の結果で終えたいと語っています。また、引退後はネイルサロンを開きたいという夢も明らかにしています。空き時間には気分転換も兼ねネイルアートを勉強し、第二の人生に踏み出す計画も進行中です。

重量挙げ　郭婞淳（グゥオ・シンチュン）　台湾人の気持ちをも持ち上げる女神が参戦！

重量挙げ選手　郭婞淳（28）

今年、2021 年４月、国際大会で３つの金メダルを獲得し、コロナウイルスの蔓延で気持ちが落ち込む中、台湾に明るいニュースをもたらした重量挙げの女神と呼ばれる郭婞淳選手。彼女は、当初バスケットボールと陸上競技の選手であり、その後、重量挙げに転向しました。

「13歳の時に重量挙げを始めましたが、その時は本当に嫌でした。もしかしたら、自分に才能があるのではないかと思ったのは、中学３年生で、初めて金メダルを手にした時でした。」

2009 年に重量挙げ 53 キロ級で金メダルを獲得した後、彼女は頭角を現し始めました。2013 年にアジア選手権、ユニバーシアード、東アジア大会、世界選手権など国際大会で立て続けに金メダルを獲得し、彼女の名は金メダルの代名詞になり、重量挙げ界の新星と呼ばれるようになりました。

しかし、2014 年のトレーニング中の事故により、彼女は車椅子が必要な程の重症を負ってしまいます。

痛みを伴うリハビリを経て、競技に復帰した後、身体が不自由になった際の辛さがさらに分かるようになり、積極的に支援の取り組みを開始しました。まず、過去に獲得した賞金を、救急車の費用として地元の病院に寄付しました。さらに、母校である台東の重量挙げチームに毎年 10 万元 (日本円 39 万円程度) の支援をしています。

2021 年に国際大会が再開されると、青年カップとアジア選手権で３個の金メダルを獲得し、合計３枚のオリンピックの切符を獲得しました。勢いに乗っている彼女が東京オリンピックに参戦します！